

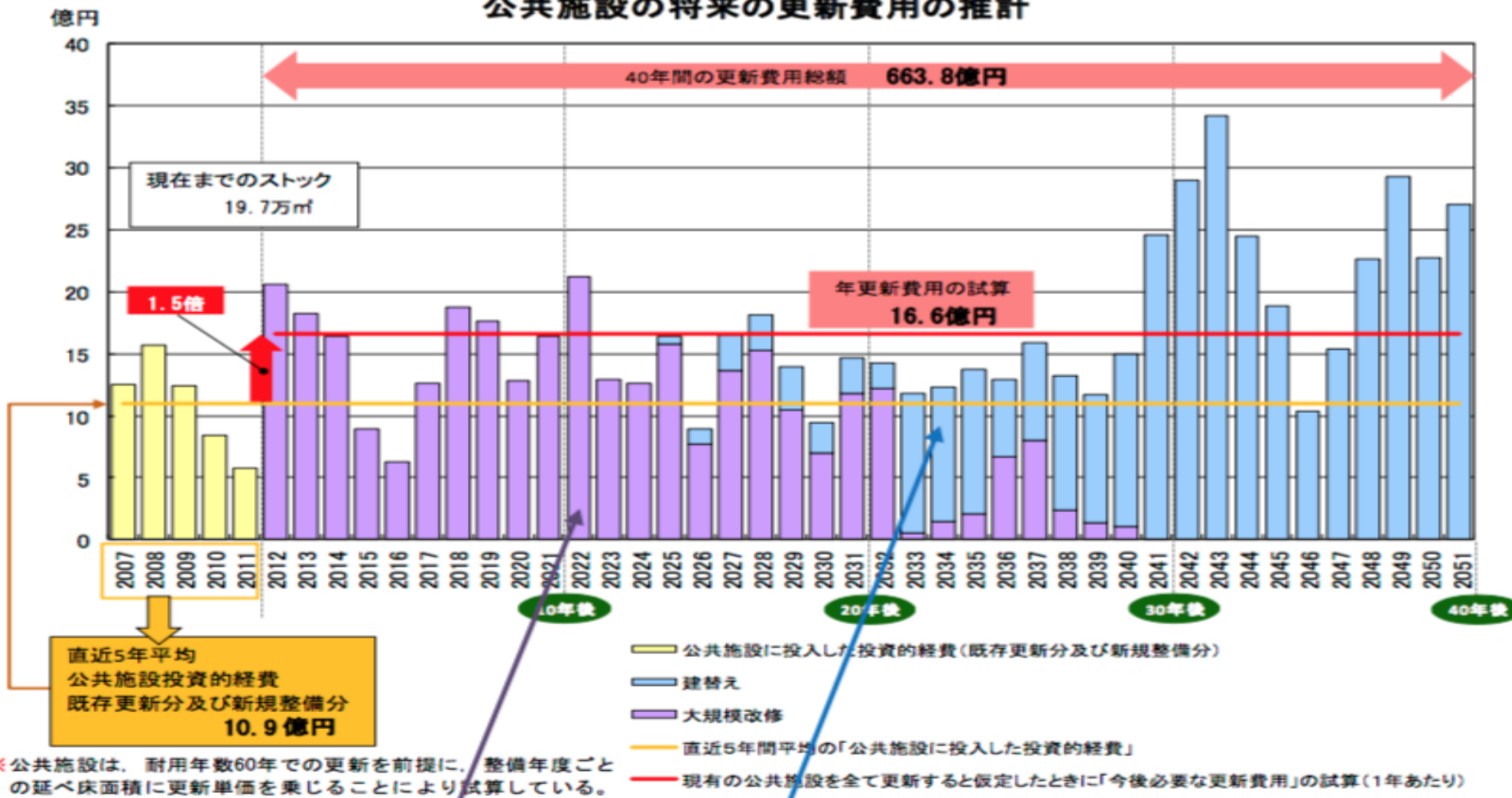
# 公共施設マネジメント 「拡充」から「縮充」への発想転換

東洋大学客員教授  
南 学

# 「時限爆弾」としての公共施設

- 市民の生命と財産を脅かす「時限爆弾」
- 更新費用の財源が確保されていない

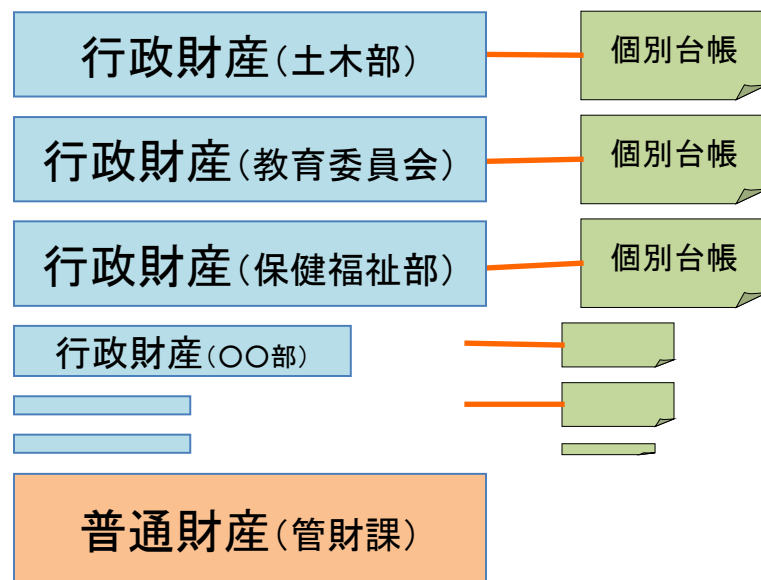
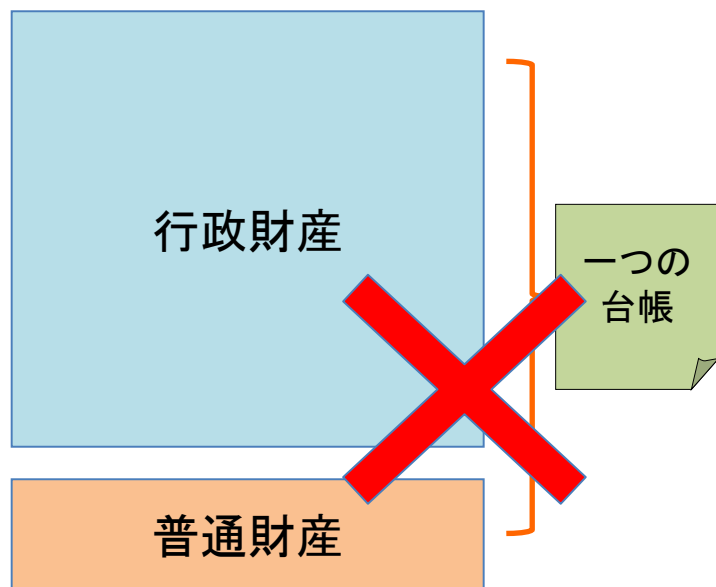
公共施設の将来の更新費用の推計



※ 公共施設は、耐用年数60年での更新を前提に、整備年度ごとの延べ床面積に更新単価を乗じることにより試算している。

# なぜ「公共施設総合管理計画」か

- 「公共施設」の縦割り構造
- 行政財産なので、条例で規定。担当部署も固定
- 全体の状況が見えにくく、変化にも対応しづらい



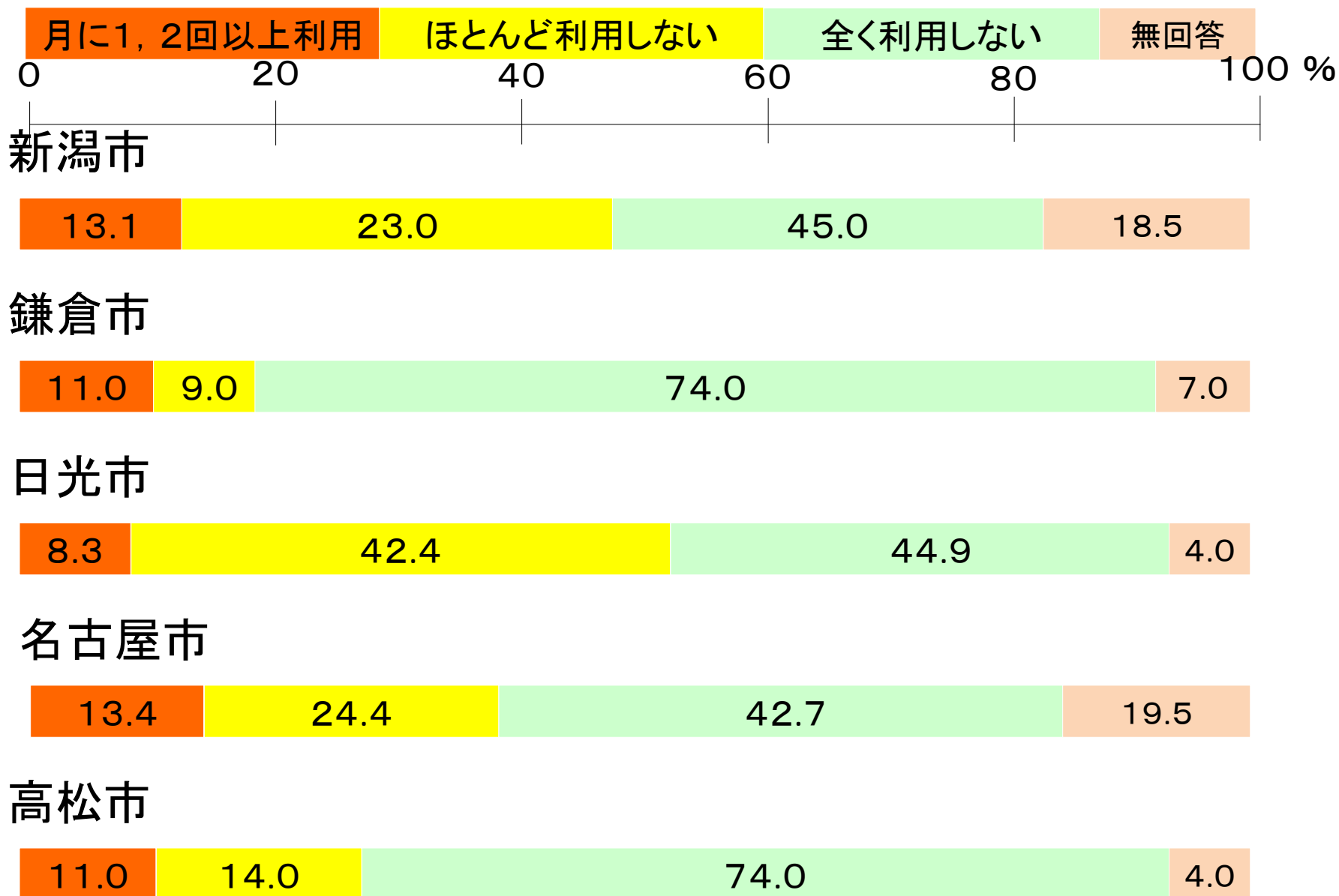
# 稼働時間は非常に少ない

## 学校施設の稼働率試算

■ 月	10か月	80%
■ 週	5日間	70%
■ 日	7時間	30%

$$1.0 \times 0.8 \times 0.7 \times 0.3 = 0.168 (16.8 \%)$$

# 公立図書館の利用状況(無作為抽出による市民アンケートの結果)



# 図書館機能は複数、利用は少数

- 10%前後の図書館利用者(年間30回以上は0.1%)
- 中心サービスは貸し出しと子どもへの読み聞かせ
- 暇つぶし? 調査研究? 交流? 自習?
- 利用図書の厳選で、閲覧スペースを産み出す
- 専門図書は、県立や近隣市の図書館を活用
- 貸出、閲覧のみなら無人図書館や自動貸出返却機
- 美術館、博物館の「毎日開館」は必要か

# 身近なスポーツは多目的室で

- 身近なスポーツに使いにくい体育館
- 人気は、ヨガ、社交ダンス、フラダンス、卓球
- プールとマシン、スタジオなら民間施設の活用
- 半田市成岩中体育館はスポーツクラブの運営
- 特定団体の利用が多い（負担は全市民）
- リハーサル室は予約で満杯（音楽室の需要）

# 公共施設マネジメントの「方程式」

財源確保  
(課題)

=

総面積の統廃合  
(面積圧縮率)

+

民営化  
(経費圧縮率)

+

受益者負担増  
(受益偏在改善率)

+

遊休資産活用  
(売却・貸付率)

単純な面積圧縮ではない(縮充で)



# 行政サービスの「ポートフォリオ」

## 限定された財源



福祉・医療  
(介護・健保)

+

公共施設マネジメント  
(縮充)

+

防災・防犯  
(命と財産)

+

教育  
(次世代への投資)

+

道路・上下水道料  
(生活インフラ)

市民による選択肢が提起されている